

小さな備えが命を守る

大きな災害が発生したときに、水道管や施設が損壊し断水になることがあります。
企業団では、全力で復旧に努めますが、被害の状況によっては、
復旧に時間がかかることがあります。
“いざという時”のために家庭でできる災害に備えた水の備蓄
について確認してみましょう！



飲料水～生きていくために必要な水～



人が生命を維持するのに必要な飲料水の量は、**1人1日3リットル**とされています。
いざという時のために、**3日間で9リットル**の飲料水を備蓄しましょう。

※水道水の汲み置きを行う場合の注意点※

- ①清潔で水道水を密封できる容器(ペットボトル等)に空気が入らないように口いっぱいまで入れて、フタをします。
- ②直射日光が当たらない涼しい場所で保存します。保存可能期間は3日間程度です。
- ③3日間は過ぎたら花の水やりや洗濯などに使用し、新しい水に取替えます。



生活用水～トイレ・風呂・炊事などに必要な水～

普段私たちは、きわめて多量な水を使用することで生活を成り立たせています。
1人あたりの平均使用量は、**1日に300リットル**とされています。
飲料水の100倍にも上るこの膨大な水の量を、すべて備えておくことはあまり
現実的ではありません。

そこで、家庭ですぐできることとしては、風呂の残り湯を常に溜
めておく習慣をつけることです。

お風呂の残り湯を常に溜めておくだけで200～300リットル
程度の水を確保していることになります。



まとめ

災害が発生したときに、飲料水や生活用水をどう使うのか？
具体的に想定して一年に一度くらいは、家庭でも節水方法を考えて1日過ごして
みると、どのくらいの水がどのように活用できるのかイメージしやすくなります。
いざという時のために、今、私たちにできることを普段の生活の中に取り入れて
いきましょう。

